

	実 態 と 課 題	授 業 改 善 策
国語	「言語」の知識に個人差がある。また、言葉の意味が分からず、その結果、「読み取り」が不十分だったり、自分の考えを文章化できなかつたりすることが多い。 - 作文は、経験したことの中から書くことは見つけられるが、全体の構成を考えたり内容を膨らませたりすることは難しい。 「漢字の書き」の習熟度に個人差が見られる。	- すぐに辞書（紙面、電子）で意味調べができる環境にしておく。また、説明的文章や、物語的文章の読解において叙述を基にして読み取る力を高めるために、文章中のキーセンテンスや登場人物の様子や心情が分かる部分にサイドラインを引く活動を積極的に設定する。 - 書き始める前に「始・中・終」の大まかな文章構成ができるような構成メモを用意し、書くことの見通しをもたせるようにする。 - 漢字ドリルを基にした漢字小テストを実施し、合格点を取ることができるよう粘り強く指導する。家庭学習での練習とともに、漢字を覚えることができるよう、学び方を指導する。
社会	4学年の既習事項である都道府県の名称、位置など、基本的な知識が定着していない児童が多い。また、世界の国の名称や位置などは、児童によって興味や関心、基本的な知識に大きな差がある。 - グラフの情報を正しく読み取り、そこから考察できる力が少しずつ身に付いてきている。 - 授業中に扱った用語や意味を理解することはできているが、それらの用語を使って説明したり、文章にしてまとめたりすることが苦手である。 - 社会情勢や、世の中の出来事に対する興味、関心が薄い。	- 地図帳を積極的に活用し、名称や位置を確認できる回数を増やす。また、国旗クイズや本などを紹介し、外国への興味関心も高める。 - グラフを読み取るポイントを提示し、教科書に書かれているグラフには必ず触れるようにする。 - 学習のまとめをする際に、教師がまとめたことを文章にするのではなく、児童と一緒に考えたことを黒板に書くようにする。 - 各単元において、自分が興味をもったことや疑問点などを自分なりに調べてノートにまとめる時間をとることで、自発的に社会への興味、関心をもてるようにする。
算数	5年生の学習では、基本的な計算技能や知識を概ね身に付けている。しかし、「小数のわり算」は他の単元よりも定着度が低い。 - 思考力・判断力・表現力については、知識・技能よりも習熟度が低い。特に「小数のかけ算」「小数のわり算」「体積」の学習で課題が見られる。 - ノートの取り方にも個人差があり、思考の流れやつながりが見えてこない。	「小数のわり算」については、筆算の仕方を正しく理解できていないことが考えられる。2学期以降も引き続き、すららドリルや家庭学習を含め、繰り返し学習に取り組むようにする。 - 算数の学習では、既習事項の生かし方を考えたり、解き方を図・式・言葉などさまざまに表現したりする活動を設定する。 - 改めて、「問題、めあて」→「自分の考え」→「つなげタイム」→「まとめ」→「ふりかえり」に沿ったノートの作り方を徹底していく。また、教師側がノートを点検し、一人一人の理解度を把握した上で、次時の授業に生かす。
理科	- 身近な生活や既習事項からつなげて想像し、問題を見いだす事ができない児童が多い。 - 実験の条件制御については、友達の説明を聞くと分かる児童が多いが自分で考えることは難しい。また、実験の際に条件制御を意識して行えていないこともある。 - 学習内容について授業内では分かっているが、あとから振り返ると分からなかったり、既習事項と混ざっていたりすることもあるので、定着までに至っていない。	- 身近な生活や既習事項から問題を見いだせるように、児童に疑問をもたせられるような声掛けを行い、疑問を問題として設定できるように文型を用いるなどして指導する。 - 条件を制御して実験が行えるように、実験などの各場面で変化している条件と変化していない条件を意識付けるような声掛けを行う。 - 予想や仮説を基に実験方法を考え、予想や仮説が正しければどうなるかの想定をする場面などを重点的に指導することで、科学的な問題解決の流れを定着させる。
音楽	- 自分の歌声の響きを意識して、意欲的に歌う児童が多い。しかし、二部合唱で歌声の重なる心地よさを感じるには至っていない。 - 器楽においても、意欲的に取り組んでいるが、旋律を歌うように表現したり、楽器のもつ一番よい音を引き出す奏法について追究したりする意識がまだ薄い。 - 音楽を鑑賞して、感想や想像したことを書いたり発言したりすることができる。その理由を音楽から見付けられるようにしたい。	- 簡単な二部合唱曲で、相手のパートの歌声を聴きながら、自分のパートを歌う経験を増やし、正しい音程感を身に付けさせる。 - よい音を範奏やCD音源で聴かせたり、互いの音をじっくりと聴く場面をつくったりして、音に対する感覚を磨くようにする。 - 音楽を聴いて感じ取ったことと、音楽を形づくっている要素とを結び付けて考えられるように、板書やワークシートを工夫する。 - 協働的な学習や個別最適な学習をおこなえるよう、学習の形態を工夫する。
図工	- 好奇心が旺盛で、次はどんなことをするのか期待感をもって取り組む児童が多い。 - 話しを聞く、発言するなどの学習規律が身につけていない児童も多く、話しを落ち着いて聞ける態度を身に付けさせる。 - 学習した用具を適切に扱えている児童が多く、題材の中で、新しい用具の扱いなど、触れる機会を多くもち、体験を通してさらに身に付けられるようにする。 - 理解力に差があったり、気持ちにむらがあったりして、学習に参加することが難しい児童もいるため、児童一人ひとりの背景も理解した適切な言葉かけが必要。	- 児童が自分の感覚や行為に自信をもち、自分なりに納得のいく活動や、作品を完成させたときなどの充実感を味わえるよう、題材の内容を吟味し、それぞれの児童に適切な声掛けをする。 - 黙って話しを聞く場面、話し合ったり、発言したりして能動的に活動する場面のめりはりをつけられるように、その状況ごとに気付かせていく言葉かけをする。 - 一斉指導では、理解することが難しい児童や、気持ちにむらがあり、活動に入れない児童などは、製作の支援をしたり、内面をくみ取って声掛けをしたりして、個々の状況に合わせた支援をする。 - 活動を通して、自分にとって、どのような意味や価値が作り出されたのかを意識して振り返らせるため、作品カードを書い

		たり、発言したりする機会を計画的にもつ。
体 育	・体力テストの結果、男子は、「２０mシャトルラン」「立ち幅とび」「５０m 走」、女子は、「上体起こし」「長座体前屈」が全国平均を比較的上回っている。全体を見ても、８０％の児童が平均を上回っている。 ・一方、「握力」は、全国平均を下回っている。 ・運動に意欲的に取り組む児童が多く、集団で関わり合い、教え合ったり、考えを伝え合ったりすることにも慣れてきている。	・持久力や跳躍力が高いのは、マラソン旬間、なわの日の取り組み、積極的な校庭での運動遊びの成果と考えられる。引き続き取り組めるように支援する。 ・「体力を高める運動」で、ペアやグループでの力試しの運動を積極的に取り入れる。 ・集団で関わり合う時間には、話し合いの観点を伝え、何度も繰り返し行う。